

1. 事業説明シート

|     |                    |      |           |     |                |      |     |
|-----|--------------------|------|-----------|-----|----------------|------|-----|
| 事業名 | 砂防事業 [通常砂防事業 (国補)] | 事業箇所 | 南巨摩郡身延町帯金 | 地区名 | 泥の沢川 (ドロノサワカワ) | 事業主体 | 山梨県 |
|-----|--------------------|------|-----------|-----|----------------|------|-----|

**(1) 事業の概要**

**①課題・背景**  
 本溪流は流域面積0.09km<sup>2</sup>の土石流危険溪流である。流域内は崩壊や溪岸浸食が進行し、溪床には不安定土砂、転石が堆積しているとともに、溪岸沿いには立木が密集している。今後の台風や集中豪雨時には、土砂流出、流木による土石流発生の危険が高まっている。保全対象は、人家19戸のほかJR身延線、県道市川三郷身延線、町道、橋梁1基が存在し、土石流が発生すると甚大な災害を引き起こすことが予測され、土石流を抑止する砂防堰堤を早急に設置し、土砂災害を未然に防止する必要がある。

**②整備目標・効果**  
 □主要目標 ○土石流被害の防止  
 ・災害実績 無  
 ・土砂整備率 31% < 70%未満※  
 ・重要公共施設の有無 有 (県道、JR身延線)  
 (保全対象=人家19戸、JR身延線 130m、県道 230m、橋梁1基)  
 ※評価基準値

□副次目標 ー  
 □副次効果 ー

**(2) 整備内容**

**①整備内容**  
 砂防堰堤 1基 H=14.5m L=53.0m

**②着手年度** 令和5年度 **③完成見込年度** 令和14年度

**④総事業費** 約400百万円 (国費200百万円(5/10)県費200百万円(5/10))

**⑤年度別の整備内容 (事業費)**

|        |           |       |
|--------|-----------|-------|
| 令和5年度  | 詳細設計・用地測量 | 30百万円 |
| 令和6年度  | 用地取得・立木補償 | 20百万円 |
| 令和7年度  | 砂防堰堤工事    | 45百万円 |
| 令和8年度  | 砂防堰堤工事    | 45百万円 |
| 令和9年度  | 砂防堰堤工事    | 45百万円 |
| 令和10年度 | 砂防堰堤工事    | 45百万円 |
| 令和11年度 | 砂防堰堤工事    | 45百万円 |
| 令和12年度 | 砂防堰堤工事    | 45百万円 |
| 令和13年度 | 砂防堰堤工事    | 40百万円 |
| 令和14年度 | 砂防堰堤工事    | 40百万円 |

※記載内容は見込みであり、確定したものではない。

**⑥既整備内容・期間・事業費**  
 既整備内容 砂防堰堤 1基  
 期間 昭和59年~平成3年 C=206百万円

**(3) 事業の妥当性評価**

①公共関与の妥当性 (行政が行うべき事業か)  妥当  妥当でない  
 砂防法第5条に基づいており、行政が行うことが妥当

②事業執行主体の妥当性 (県が行うべきか)  妥当  妥当でない  
 砂防法第6条に基づいており、砂防管理者の県が行うことが妥当

③経済妥当性  妥当  妥当でない

|       |         |         |           |         |    |
|-------|---------|---------|-----------|---------|----|
| 総事業費  | 400 百万円 | 工期      | R5~R14    | 基準年     | R4 |
| 経済効率性 | 費用      | 321 百万円 | 便益        | 818 百万円 |    |
|       | 建設費     | 321 百万円 | 一般資産被害抑止  | 338 百万円 |    |
|       | 維持管理費   | 百万円     | 人身被害抑止    | 58 百万円  |    |
|       |         | 百万円     | 公共土木施設等被害 | 105 百万円 |    |
|       |         | 百万円     | その他※      | 317 百万円 |    |
| B/C   |         |         | 2.5       |         |    |

※その他は応急対策(家計)、人的被害(精神的損失)  
 費用便益比 (B/C) は1.0を超えており、経済効率性は確保されている

④事業実施・規模の妥当性  妥当  妥当でない  
 流域の規模、地形、地質等から判断して最も効果的である

⑤整備手法の有効性  妥当  妥当でない  
 地形・地質及び流域の状況から土石流対策として最も効果的かつ経済的な砂防施設計画とした

⑥環境負荷等への配慮  妥当  妥当でない  
 掘削法面等に緑化等を施し、環境負荷に配慮

⑦事業計画の熟度  妥当  妥当でない  
 地元の要望に基づいている

**総合評価** [貢献度ランク: a]



